



田中るみ子の活動レポート 6月議会報告

～誰もが生きやすいまちに～

みなさまのご意見、現場の声を
お聞かせください。
TEL・FAX：0940-37-0700
Email：munakata@fnet.gr.jp



メール用
QRコード



一般質問

市民の暮らしの困りごとに寄り添う支援を

市民から困り事や悩みの相談を受けますが、市の相談窓口がわからないという声が多いです。市には、高齢者・障がい者・子育てなどの相談を受け、支援する窓口が色々ありますが、どこにも相談できず、深刻な状況になるケースもあります。

市は今年、暮らしの困りごとの相談を市のどの窓口でも受け付ける事業を始めました。

○職員の相談対応について

市では、昨年から福祉関係の職員に、相談の対応力向上のための研修をしています。また、難しいケースでは、関係する課や専門機関と連携して支援しているということです。

窓口で最初に話を聴く職員の対応がとても大事です。職員の対応が事務的だったり、知識不足では、相談者は信頼できず不満を感じます。担当課以外の職員でも十分な対応ができるように、相談対応力を高める研修の充実を要望しました。

全国的にひきこもり状態の人が増加しています。宗像市も例外ではありません。

ひきこもりの人は、相談できずに支援を受けてないことが多いと、ひきこもりの家族会の調査で報告されています。また、宗像市で、長年ひきこもり支援に取り組んできた方は、「回復するには、ひきこもっていた期間の2倍の期間がかかる。早い時期に支援につながる事が重要だ。」と話されました。



宗像タウンプレス 4月号

○子どものひきこもり相談への対応は？

市は親の会や仮想空間で外部とつながる方法や、就労準備事業等の情報を伝えていて、本人・家族に寄り添い、継続した支援を行いたいという回答でした。さらに、宗像市では、70代の親からの相談が多く、その子どもは、40代、50代が多いようです。また、30代も少なくないと若者調査からわかっています。そのため、ひきこもり専任の担当者を置くことを要望しました。

市民の困りごとは、様々で複雑になっています。

一人で抱えこまず、相談することで解決に向かうよう、市民に相談窓口を知らせること、そして、本人の意思に寄り添う支援に努めることを要望しました。

●市のホームページの改善について

3月のリニューアル後「知りたい情報」が検索で見つけにくくなったという声を多く聞きました。具体的に指摘し、改善を要望しました。

ここに注目！

日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める請願が出されました。

市民ネットは賛成。しかし、議会では賛成少数で否決

私（田中るみ子）は長崎市出身です。8月9日は夏休み登校があり平和教育を受けました。社会科見学では原爆資料館にも行きました。溶けたガラス瓶、焼けこげてボロボロになった衣類、全身やけどの人の写真等の展示物を見て、原子爆弾はたった一発でもとても怖いものだったことを思い出しました。

核兵器は一度使用されれば甚大で残虐な被害をもたらします。環境は破壊され、世界が放射能の影響を受けます。何十年にも渡って健康被害、後遺症をもたらします。日本は唯一の被爆国です。あの残虐さを経験したからこそ、世界に核兵器の廃絶を訴えていくべきです。

政府に対し条約に参加することで、被爆者の願いにこたえ、核兵器のない世界を目指す姿勢を明確にすることを求めます。

以上の意見を述べました。

※請願は市民が議会に対して直接要望や提案ができる制度です。
請願する権利は国民に憲法で保障されています。



♪鴻巣市（こうのすし）に視察に行ってきました♪

ICT（情報通信技術）教育の先進自治体である埼玉県鴻巣市に視察に行きました。

市内すべての小中学校で、児童生徒と教職員に1人1台の端末を配布し、教育ICT基盤をフルクラウド化しています。「教育ICT環境を整備するのは、全ては子どもたちの未来のためです。子ども達は将来ICT機器に囲まれた社会に飛び出します。その時に活躍できる資質と能力を身に付けさせたいという思いからです」という説明でした。

鴻巣中央小学校には、最先端のICT機器を備えた教室が設置され、大型スクリーンや3Dプリンターなどがありました。6年生の授業を見学しました。メディアリテラシーについてパワーポイントを作成し、グループ発表する内容でした。児童は発表の感想をタブレットに入力し先生に送信すると、全員の感想を先生は同時に知ることができます。

ICT環境の整備により教職員の業務の負担軽減、授業の質の向上などに繋がったとのことでした。

ICT教育と紙の教科書やノートを使う従来の教育の良さを生かしていくことを考えたいと思いました。

